

室内環境に対する居住者の意識調査

○田中絵梨* 劉福姫* 田中辰明**

(*お茶の水女大・院, **お茶の水女大)

【目的】近年、快適で健康的な住宅が注目を集めており、住宅の設計や計画に先立ってシミュレーションなどにより性能や効果を予測する PDR (Pre - Design Research) に加えて、実際の居住者の満足度および快適性に関する居住後評価 POE (Post Occupancy Evaluation) が重要視されている。本研究では、居住者の室内環境に対する満足度に影響を与える環境要素および室内空間をデザインする際に重要視する項目を抽出し、また、後の研究 (家具配置別の室内気流解析) のために寝室における家具の配置を類型化することを目的とした。

【方法】2000年5月18日、19日にお茶の水女子大学の学生50人を対象に、アンケート調査を行った。質問項目は、1) 回答者の居住形態 2) 室内環境の評価および室内環境に対する満足度 3) 空間デザイン要素に対する重要認識度 4) 換気行動 5) 部屋の間取り図である。データの分析には SPSS for Windows を用いた。

【結果】室内環境に関する項目の評価に5段階等間スケールを用いたところ、全項目の平均値は3.21であり、「ふつう」という評価であった。室内環境の評価項目に対して因子分析を行ったところ、4つの因子 (空気、温熱・光、音、空間) が抽出され、また、全体的な室内環境に影響を与える環境項目は、空間環境要素であった。室内空間をデザインする際に重要視する項目は、居住者が調節しやすい家具の配置や家具の色・柄およびカーテンの色・柄などの項目であった。寝室における家具の配置を類型化すると、「対面配置型」「二面配置型」「三面配置型」の3つのタイプに分けられた。